

## 県立大×新潟日報シンポ



日本を取り巻く安全保障環境と経済について語り合ったシンポジウム「変わりゆくアジア」＝2日、新潟市中央区

# アジア安保、経済討論

日本と周辺地域の安全保障環境と経済を考えるシンポジウム「変わりゆくアジア」が2日、新潟市中央区の新潟日報メディアシップ2階日報ホールで開かれた。県立大と新潟日報社の共催で、台頭する中国との向き合い方やアジア地域の将来像などを語り合った。

オンラインを含め計140人が参加した。県立大学院国際地域学研究所の崑山京子教授は基調講演で、経済成長を続ける半面、南沙海や尖閣諸島領有などを巡り強硬姿勢を示す中国の姿を解説。「巨大マーケットが地域の経済的繁栄をもたらす期待もあるが、力による現状変更など日本の安全保障へのリスクも懸念される」と指摘した。

国際経済学部の黒岩郁雄教授は、東アジア地域の経済規模拡大に触れ「特に中

国はWTO(世界貿易機関)加盟を機に大きく成長し、地域の生産ネットワークの中心になっている」と分析した。

また、新潟日報報道部の小池大・経済担当キャップは、日中韓などが加盟し、1月に発効した地域的な包括的経済連携(RCEP)協定による県内企業への影響を解説。報告者らによる討議も行われ、「中国は隣国であり、共通の利益を見いだせれば協力し合えるのではないか」といった意見が出された。

参加した新潟市中央区の会社員湯谷良樹さん(56)は「イデオロギーの違いを超え、どう関係を築いていくかを考えることが大事だと思っただ」と話した。

◇ 詳細は県内経済面に後日掲載します。